

◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

— 特別展覧会「禅 — 心をかたちに —」—

ぜん えが
禅の「先生」を描く
ちんけん れつそず まんぶくじぞう
陳賢筆列祖図(萬福寺蔵)

みなさんの学校の校長室には、これまで校長先生をつとめてきた先生たちの写真が飾られていませんか。歴史の古い学校ほど、多くの先生の写真が並べられており、やさしかった先生も威厳のある姿で写っているの、校長室に入るとなんとなく緊張しますね。今回の展覧会は仏教のなかの「禅宗」という宗派にかかわる文化財を展示していますが、ここで紹介する「列祖図」は、簡単にいえば、禅の「先生」たちの姿を描いた肖像画を収めた冊子です。



図1 釈迦如来像

「列祖図」の「列祖」とは歴代の祖師という意味で、「祖師」は宗派を開いた高僧のことです。日本の禅宗には主に臨済宗、黄檗宗、曹洞宗などの宗派があります。仏教はインドで始まりましたが、三宗派とも中国で生み出されたもので、鎌倉時代から江戸時代にかけて日本に伝えられました。この「列祖図」は黄檗宗の総本山である京都・宇治の萬福寺が所蔵しています。中国で明から清に王朝が変わるころ、明朝の元号で永暦八年、清朝の元号では順治十一年にあたる1654年に中国南部の福建省の泉州あたりで、陳賢（生没年未詳）という黄檗僧が描いた画冊です。

それでは、どのような祖師たちが描かれているのでしょうか。

第一祖の摩訶迦葉から第三十三祖の慧能まで三十三人、「西天東土」、すなわちインドと中国の三十三祖が世代順に並べられています。ただし、冒頭の黄檗宗開祖の隠元隆琦（1592～1673）の題字と序文につづいて描かれているのは釈迦如来（図1）です。みなさんご存知の「お釈迦さま」で、仏さまとして崇拝されますが、紀元前五世紀ごろに北インドで仏教を初めて説いた実在の人物です。次には釈迦の脇侍にあたる文殊、普賢菩薩が、さらに観音、勢至菩薩がつづきますが、四菩薩は実在の人物というわけではありません。

第六図になって始めて、第一祖の摩訶迦葉（図2）が登



図2 第一祖 摩訶迦葉像

